

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	センチュリー児童デイサービスたかお		
○保護者評価実施期間	2023/4/1		～ 5月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2023/4/1		～ 5月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名(2名パート含む)	(回答者数) 8名(2名パート含む)
○事業者向け自己評価表作成日	2024年7月27日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校でも家庭でもない、第三の居場所として、年齢も障害特性も異なる集団の中で社会性を学び、子供たちの関わりを大切にしながら年齢や性別、発達段階に応じて楽しめる活動の提供を目指している。作業療法士や保育士の専門的視点からのアドバイスを受け支援を行っている。	来所後の流れを絵でわかりやすく掲示したり、一日のスケジュールを絵カードで確認できるようにし、見通しを持って安心して活動ができるようにしている。時間の残量が見えるタイマーを使ったりと視覚からもわかりやすいような環境を意識している。	五感を十分に使った活動を通して、子どもの感性・人格を育ていける支援の提供。
2	学校休業日には地域や郊外の施設を積極的に活用し、交流や体験の場を創出している。	手帳や減免の効く施設・イベントを日頃からチェックしている。	買物や公共交通機関の利用の機会を増やす。
3	常勤のほとんどが正社員であるため、全体で支援の方向性を把握できている。	ご利用時のお子様の様子を見ているので、送り時には送迎者がその日の様子を保護者様にお伝えしている。	保護者様のお悩み、ご相談を気軽にしてもらえるような信頼関係を支援を通して築いていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の年齢が上がってきたため、活動内容やお出掛け先が限定されるようになってきた。	低年齢であった児童が成長していき、今までと同じようにはいなくなってきた。	異年齢、異なる障害特性を持つ子どもの集団活動なので活動内容やお出掛け先もすべての児童に見合ったものになることは難しいが、グループに分けて発達段階に合わせた活動内容や年齢に合わせたお出掛けを楽しむ。
2	職員の平均年齢が高く、男性職員が少ない。	求人をかけても若い人や男性の応募があまりない。放課後等サービスの職種への認知が少ないことも考えられる。	職場見学をしたり、福利厚生や給与面での充実を図り、若い人がやってみようと思える職場作りが必要。
3	利用定員に空きがある。	曜日固定の利用に変えたため、利用者様の利用したい曜日に空きがなければ、ご利用を勧めることができない。	相談員さんに空き状況を伝える、または挨拶に行く機会を作っていく。